

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570306381		
法人名	社会医療法人 興生会		
事業所名	高齢者グループホーム ふれあい荘		
所在地	秋田県横手市杉沢字中杉沢400		
自己評価作成日	2017/10/31	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成29年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ふれあい荘は、事業所理念の他、常に明るく、笑顔で、元気良く、を心掛けて、ご利用者より良い関係を持ちながら支援をさせて頂いています。又、ご家族との信頼関係も大切にしており、遠方でもその都度連絡を取り合いながら関係を良好に保てるように配慮しています。行事にもご家族、地域の方々もお招きして、職員とも顔見知りとなることでより信頼関係を持てるように力をいれています。

一緒に住んでいて居心地のいい空間作りと集団生活の中にもさりげない個別ケアができる様に日々心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議に、遠方の1家族を除く全家族が年1回は参加する仕組みを採用しており、互いの更なる信頼関係構築につながっている他、市福祉課が毎回あえて異なる職員を派遣してくれており、ホームの実情を関係職員に広く把握してもらえるメリットを実感している。最も経験の浅いスタッフでも11年のキャリアを有しており、スタッフ間で業務をどのように工夫したらよいかいつも検討しており、各記録様式は、スタッフからのアイデアで使いやすく改良が重ねられている。介護計画の目標に番号が振られ、ケース記録の番号と連動させることで、目標に沿った支援の実現につなげている。「心のこもった笑顔での対応がこのホームの自慢！」と言い切るスタッフの笑顔が印象的であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、台所の職員が目につく場所に掲示しており、毎日の申し送り後にはその日のスタッフ全員で唱和し、実践につなげている。	「笑顔でゆったりと尊厳を持って傾聴する」との開設当初からの理念を今も大切に共有している。全スタッフでBS法を活用し、「いつも笑顔で元気で明るいあいせつを」とのホーム目標を作成している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はないが、地域の理髪店の利用であったり、毎年恒例の芋の子会やクリスマス会へお招きして、運営推進会議には地域代表の方の参加がある。	町内会長の協力を得て、各種行事に地域住民が互いに誘い合い参加しているとのこと。近隣住民から、りんごやお菓子、時にはハタハタの差し入れもあるとの微笑ましい事例も確認できた。	地域により開かれたホームを目指し、デイサービスの開設を検討しており、その実現に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域貢献とまではいかないが、小中学生の職場体験や学生の実習の受け入れをしたり、地域については、行事への参加をさせていただいた際に伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の開催を実施。行政や町内会長・ご家族様・入居者様も参加されている。写真による毎月の行事報告や今後に向けた取り組み活動などを話し合い、意見をからその後の活動に活かしている。	前回の外部評価結果のホーム独自の目標達成計画に基づき、全家族に運営推進会議の主旨及び年6回開催の日程を郵送し、遠方の1家族を除く全家族が、年1回は参加する仕組みを採用している。会議に参加することで、ホームの実情をより理解でき、互いの更なる信頼関係構築につながったとのこと。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、実情やケアサービスの取り組みを伝えている。その他月2回介護相談員の来荘がある。日頃は、主に管理者を窓口で連絡を取っている。	運営推進会議には、市福祉課が毎回あえて異なる職員を派遣してくれており、他のホームの状況を紹介してもらうことで、避難訓練の際のチェックシートの活用につながったとのこと。ホームの実情を関係職員に広く把握してもらえるメリットを実感している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ、玄関と非常口の施錠している。身体拘束をしないケアを理解し実践はできている。又、おむつ外しの行為がある方は、家族の許可を得て身体拘束にならないように対応している。	最も経験の浅いスタッフでも11年のキャリアを有しているが、毎年4月にリスクマネジメント委員会が主体となり、身体拘束防止に向けたマニュアルを全スタッフにあえて配布し回覧している。互いに年に一度は再確認することで、身体拘束をしないケアを徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学ぶ機会は、少ないがカンファレンス等で再確認をしている。方言で声かけがきつく聞こえたりすることがあるため、職員同士がお互いに気をつけるよう声をかけあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	主に管理者が関係性を気付いているが職員が学ぶ機会は少ない。熟知していない職員もいるため、今後に向けて学習意欲はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類関係は、管理者が入居時に十分な説明をしており、理解していただいている。管理者不在のときは、職員と連絡を取り合って説明をできるように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や介護相談員の来荘があり、意見や要望を伝える機会がある。それ以外にも日常や、面会時にも意見を言える雰囲気作りをしている。	家族への毎月の請求書に「ご連絡」と題した詳細にわたる入居者の状況報告を同封しており、必要に応じ、家族からの意見・要望・質問等が返送されている。個別にファイリングされ、全スタッフが共有していることが、スタッフのサインで確認できた。家族からの信頼をととても大切にしていることが伺える。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人としては、年一回、職員面談を実施して管理者を通して伝える機会がある。管理者は、面談内容を代表者に伝達している。又、月1回のカンファレンスで職員との意見交換や提案を聞く機会がある。	「連絡ノート」には様々なスタッフの気づきが数多く記入されている。スタッフ間で業務をどのように工夫したらよいか、いつも話し合っているとのこと。高額な費用を要するものを除いては、管理者の判断で対応できる環境にある。「心のこもった笑顔での対応がこのホームの自慢！」と言い切るスタッフの笑顔が印象的であった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と直接会う機会はないため、年一回の面談の内容や管理者を通し、職場環境・条件の整備がされていると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会があり、学んだことは他職員にも報告している。日々の仕事に生かすよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横手市GH連絡協議会で他事業所との交流や隣接のやすらぎの苑の勉強会への参加で交流する機会がある。現在、相互訪問は行っていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に荘の見学や事前訪問にて本人や家族の状況、要望等把握している。本人の思いを汲み取りながら安心したサービス提供を心掛けている。入居時より本人との信頼関係を築くよう努め、安心を得るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が居宅ケアマネを通じて、家人と連絡を取ったり、事前訪問にて把握している。入居者様同様、ご家族様とも信頼関係が築けるよう話し合いをしている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として豊富な知識があり、教えてもらう場面を作っている。家事の手伝いなどの役割を持って頂き、お互いに協力する関係性を気付いている。ときにアドバイスをもらい支え合う関係となっている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一か月に一回、状況報告のお便りで相談したり、協力を依頼し、共に支えていく関係を作っている。また、ご家族様に受診の同伴や外出・外泊などの協力を得ることで、入居者様との絆を深める機会を作っている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の面会時に兄弟や孫が来荘したり、行きたい場所へ出かけている。面会時は、居室にてゆっくりと談話できるよう支援しており、行きつけの理容院への送迎支援も行っている。	医療機関受診の帰りに外食を楽しんだり、馴染みの理髪店利用の際は、店からの電話連絡をもらい迎えに行くことが定着している。兄弟が帰省してきたからと、盆・正月に3～4泊している事例も確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を理解しながらお互いの関係を良好に保てるように把握している。耳の聞こえが悪い方や自らアプローチが苦手な方にも仲介して、レクリエーションや家事をする際にトラブルのないよう配慮している。孤立する方が居ないように支援している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家人からの連絡がある場合は、管理者と相談して話し合いをしている。必要に応じ支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族の思いを大切に、できる限り希望に近づけたケアプラン作成をしている。それ以外にも日々の生活で思いを傾聴し意向に添えるよう努力している。	ホームが提供するレクリエーションや体操が好きで、〇〇したいとのその日の希望を取り込み、日課に反映させている。台所作業の手伝いも各々の役割が自然に定着している。夕方に入居者の奏でる大正琴の音色が、帰宅欲求が少々強くなる時間帯と重なることで、落ち着いてくれる効果につながっている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	コミュニケーションを通じて、生活歴や環境、思いを傾聴して把握に努めている。又、ご家族からこれまでの暮らしの情報をいただき、全職員が記録等で把握できるようになっている。その上でサービスとなっており、居室内も「自分らしい暮らし」ができるよう配慮している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を記録する「ケース記録」や申し送りにて一人一人を把握できるようになっている。排泄や食事量、レクなどそれぞれ記載するチェック表もある。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成する際、ご本人やご家族の意向を尋ね、意向に添うよう作成されている。また毎月のモニタリングでは職員が意見を出し合い、反映させている。	毎月のカンファレンスに向け、担当者がモニタリングシート様式の「検討したい内容・検討した結果」が埋まる程の内容が記入されており、3か月に一度の更新に反映されている。より具体的な本人の思いを数多く確認できた。様式は、スタッフからのアイデアで使いやすく改良を重ねており、PDCAサイクルが稼働していることが感じられる。介護計画の目標に番号が振られ、ケース記録の番号と連動させることで、目標に沿った支援の実現につながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録以外にも個々の連絡帳があり、気づきや工夫を職員全員が記載できるようになっている。情報を共有し、実践や見直しに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公園や施設などの利用もして本人が望む生活ができるように支援している。又、新聞や広報等で情報を得て、ドライブや観桜などに活用している。近くの理容店の利用やスーパーへの買い物の支援も行っている。安全の面では、消防署の協力を得て避難訓練も行っている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望される医療機関を受診できるように支援している。ご家族同伴の受診の際には、状況がわかりやすいよう「受診ノート」に状態等を記入し、適切な診察が行えるように配慮している。受診結果は医師に記載してもらうことで連携をとっている。	車いす利用者に配慮し、歯科医がホームに往診に来てくれる関係にある。受診記録の様式には、スタッフ用と家族用が用意され、医師記入欄も活用されている。近隣の薬局の薬剤師が親身になって対応してくれるとのことで、数多くのアドバイスをいただいている関係にある。薬局で配達もしてくれるが、ホームの通り道に面しており、ホームとして受け取りに立ち寄っている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、訪問看護を利用中は1名のみですが、今後は全入居者を対象に訪問看護と医療連携体制を図り、身体状況の把握に努めていく予定。(調整中)利用者のその都度詳細に状況を伝え、情報共有している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に管理者が対応しており、病院の担当者と連携を図っている。入院時の情報提供は、サマリーにて詳細に行い、入院期間中も早期退院に向けて情報交換するように努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアは行っていないため、ご家族からの相談があったり、その必要性があるときには主治医とも話し合いを行うことで方針を共有している。地域関係者とのチームでの支援は出来ていない。	入居時に「入居時リスク説明書」を基に、利用者の身体状況や病気に伴う様々な症状による8項目にわたるリスクを説明している。家族の希望により、末期癌の方をギリギリまでホームで対応した経験を有しており、訪問看護と医療連携体制の構築に向け、準備中とのこと。	訪問看護と医療連携体制の構築を目指しており、その実現を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを基に、連絡網や緊急用バックなどを準備。隣接するやすらぎの苑と定期的な救命救急講習の参加を行っている。年2回の避難訓練も実施している。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な時間帯を想定した避難訓練の定期的な実施を行っているが、地域との協力体制については築かれてはいえない。 大雨の際は、やすらぎに避難し協力体制を整備している。	年に2回、5月と11月に隣接する老人保健施設と合同で避難訓練を実施している様子が数多くの記録写真でも確認できた。7月末の豪雨の際は、土砂崩れの可能性を考慮し、隣接の老人保健施設に2泊3日避難した経験を紹介してくれた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	方言の口調もあり言葉づかひや対応の仕方につけてはいる。尊敬をもち、個々に合った十分な配慮が行き届くように対応している。	玄関に設置されている面会票は面会者が記入後ただちに回収することで、個人情報の扱いに心掛けているとのこと。利用者個々の特性に合わせてはいるものの、つつい強めの方言で受け答えしてしまう様子を確認した際は、その場でジェスチャーで合図し、コントロールできるよう配慮している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中でご本人の想いを引き出したり、ゆったりと傾聴することで意見を話しやすい雰囲気を作っている。想いを汲み取れるように心がけている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	病院受診等で多忙な時には難しいこともあるが、出来る限り個々のペースに合わせた支援を行い、希望に沿えるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった洋服を一緒に選んだり、家人と相談し衣替えも行って、おしゃれが楽しめるように支援しています。個々の希望の理髪店への送迎や身だしなみにも配慮している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の好みを把握しながら、味見、盛り付け、食卓の準備と片付け等、手伝いに参加してもらい協力をもらっています。季節に応じた行事食や誕生日食も楽しまれています。	食器拭き・コップの準備・おしぼり配布やキノコをほぐしたりもやしの根をとったりと、できる範囲で食事準備に参加できるよう配慮している。利用者の重度化に対応するため昼と夕は宅配サービスを利用している。行事食についてはあえて配食を止め、主婦であるスタッフのアイデアを活かした手作り料理にこだわっている。クリスマスの定番はコーラで煮た柔らかい鶏肉とのこと。また、ポテトサラダ・寒天・漬物は好評で、行事食に欠かせない献立となっている。敬老の日はレストランからメニューを取り寄せ、個々に事前に注文してから出かける外食を楽しみにしている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事量と食事形態での提供を行っており、毎食の摂取量もその都度記録している。水分摂取量も把握しながら、好みのものを提供したり、少ない場合には定時以外でもこまめに摂っていただけるよう勧めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけや誘導を行い清潔保持に努めている。義歯の方は夜間に洗浄剤を使用している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活パターンシートにて排泄状況を把握し、時間に応じてトイレへ声かけ・誘導をしている。出来る限り清潔で自立した排泄を維持できるように支援を行っている。	血圧・脈拍・体温・入浴・口腔ケア・食事・睡眠状況等々に関する24時間の変化をマークや記号を駆使し記録できる「生活リズムパターンシート」を活用し、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。シートの情報は、必要に応じ受診時に医師に提供する資料としても活用されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態に合わせて牛乳やヨーグルトなど乳製品を提供したり、毎朝のラジオ体操や歩行運動に努めて排便を促している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日々の健康状態を把握し、時間の希望も取り入れながら対応をしている。希望で毎日入浴したい場合も受け入れて対応している。夜間の入浴は職員の人数が少なくなり、リスクがあるために行っていない。	希望があれば毎日入浴することが可能であるが、少なくとも2日に一度は入浴するよう配慮しており、1日に4～5名が利用している実態にある。夜の入浴を希望される場合は、スタッフのいる夕方に利用していただいている。脱衣室に1台の電気ストーブで十分に温かい。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状況や体調に合わせて対応している。日中も食後、おやつ後にひと休みする時間を設けていることや夜間の安眠に繋がるように日中の活動も促して室温調整をしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関する情報は個別ファイルにまとめ共有している。処方変更があった際や副作用など、気をつけることは個別ノートに記入しスタッフに周知して共有できるようにしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人や家族からの情報を得て、趣味や嗜好を知り、それぞれに好きなことを日課として行ってもらっている。その他、季節ごとの行事や、レクリエーション、外気浴等、気分転換になるような支援を行っている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	最近では、定期受診の対応に追われて外出の機会も少なくなってきたが季節に合わせた外出レクを行うようにしている。ご家族の協力の下、帰宅や外食、買い物などを楽しまれています。ドライブや買い物、散歩など、天候などを見て行っている。	広い法人の敷地を散歩でき、畑の作物や沼の白鳥を観察できる環境にある。散歩にはスタッフが携帯電話を持参し、足を延ばしたときは車で迎えに行くこと。横手城の花見や菊まつり、緑花園、角館への花見、大森公園の芝桜、田沢湖等々ホーム総出で外出しており、戸締りし、隣接の老人保健施設に留守の対応を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望した場合、家人の了解を得て自己管理しているが荘での管理は行っていない。希望される方には買い物支援をし、支払いも見守りしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば、電話等の対応をしている。その都度希望に応じた支援を行っている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、居心地が良いように明るさや温度調整、等を気にかけている。過ごしやすい雰囲気作りをするため、季節の飾り物、レクでみんなで作成したものを掲示するように工夫をしている。	利用者が協力して作成した貼り絵の力作がいくつも廊下に飾られている。目の疾患により強い光を避ける必要のある利用者に配慮し、目にやさしい光を入れるよう特に配慮しているとのことだったが、むしろ教えられるまでは気づかない程自然な光量である。不快や混乱をまねくような音、臭い、光、色、広さ、温度などは全く感じられない。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人の居室に訪問したり、居間のソファで寛いだり、思い思いに過ごせるように配慮している。廊下にも椅子やソファを置いたり、冬季には畳部分にこたつを設置している。好きな場所で、読書や休憩され思い思いに過ごされている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを持参している。座椅子や家族の写真などを飾って居心地良く過ごせるように努めている。	座椅子や写真、ベッド、衣装ケース等、好みの物が持ち込まれている。母の日に家族が送ってくれた花を飾ったとのこと。家族が衣替えに合わせて居室整理に訪問してくれる事例も確認できた。市からいただいた米寿の祝いが写真とともに居室の壁に飾られている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前やトイレ前には名札や張り紙をしてわかりやすいようにしている。非常口が分かり易いように明記するなどの配慮も行い、要所に手すりなどを設置することで、より安全な生活を送れるよう努めている。		